

初のCNSプログラムを構築

ヒルデガルド・ペプロウは、看護師と患者の治療的関係が患者の回復を促進するという看護師-患者関係の治療的發展について述べ、現在のクリニカル・ナース・スペシャリスト(Clinical Nurse Specialist, 以下、CNS)の必要性を強調し、1953年にCNSのための初の大学院プログラムを構築した非常に重要な人物である。

ペプロウは、米国ペンシルバニア州のレディングに労働者階級の娘として生まれ、病院に住み込み、1939年に同州のボツタウン病院附属看護学校に入学し、1943(昭和18)年にバーモント州ベニントン大学にて学士号をとり、1947(昭和22)年にはコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジで修士号、1953(昭和28)年には教育博士号をとっている。また同カレッジには博士号をとる前に5年間講師として仕事をし、その後は、ラトガーズで教授として学部看護教育課程や大学院教育課程のカリキュラム構築に貢献している。

このプロセスにはペプロウの母親への愛着と葛藤、ペプロウの実直さ、貧困との闘いが如実に描かれている。そしてこのような厳しい状況のなかでもペプロウは、常に患者と過ごし、看護師が精神疾患をもつ人々に精神療法や精神療法的アプローチを実施することで患者の回復を促進できることを体験し続け、実践や研究を通して実証してきた。

そしてこの試みのなかでペプロウは精神力動理論の創始者ともいえるハリー・スタックサリバンやフロム・ライヒマンなどに会い、影響を受け『人間関係の看護論』を1952(昭和27)年に出版してい

る。また第二次世界大戦中には従軍看護師としてイギリスへわたり、心的外傷後ストレス障害の多くの兵士たちを支援し、その実践は軍でも評価が高かった。そしてこの時、ペプロウは戦闘地帯の医師マックと深い友情を温め、お互いを尊敬し合い、妊娠・出産にまで至っているが、ペプロウはこのことを隠し続けた。一人で子どもを育て、仕事と両立させることを誓い、それを成功させた。この成功の背景には妹バーサや弟ウォルターの理解と支援が大きい、追い詰められた状況で、客観的に判断し、行動を起こすペプロウの力に敬服した。

さらにティーチャーズ・カレッジ時代には、臨床で活躍する大学院生を着実に育て卒業させたが、大学からの評価は厳しく、汚名をきせられたまま同カレッジを去っている。しかしこの逆境のなかでも、CNSを輩出し続け、看護職における修士号や博士号の意義を唱え、学生たちを魅了し教育カリキュラムを構築し人材を育成し続けた。

看護の原点に戻るために

私自身は、精神看護における看護教員/CNSとして活動・研究を行ない、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを用いながら、患者との治療的関係の発展においては、ペプロウの理論を活用している。そしてペプロウの理論が、異文化においても普遍的であることを実感しているが、本書を通して、ペプロウ自身の看護の哲学を理解でき、看護の真髄が見落とされがちな現在の看護において、看護実践家や教育者・研究者たちが改めて看護の原点に戻ることでできる文献であると感じた。



ペプロウの生涯

ひとりの女性として、
精神科ナースとして

バーバラ J. キャラウェイ 著

星野敦子 訳

定価 5460 円

(本体 5200 円 + 税 5%)

医学書院

TEL. 03-3817-5657

逆境のなかで、学生を魅了し続け、 人材を輩出したペプロウ看護の真髄

宇佐美しおり 熊本大学大学院生命科学研究部精神看護学教授

評
BOOK